

第 7 回

木曽川水系連絡導水路環境検討会

環境レポート(検討項目・手法編)に対する追加意見

平成21年5月15日

環境レポート(検討項目・手法編)に対する追加意見

1. 環境レポート(検討項目・手法編)の訂正に関する意見

- 岐有追-(1) 平成19年の環境省のレッドリストに基づくならば「スナヤツメ」も「メダカ」も掲載されていません。評価するのはスナヤツメ北方種、南方種、メダカ南日本集団ではないのか？
- 岐有追-(2) 学名も、スナヤツメ類、メダカ類、スジシマドジョウ類などが誤りである。和名もそれらを含めて、他種も適切に表示する必要がある。
- 岐有追-(3) ドンコはハゼ科ではない。

2. 環境影響検討の調査の手法及び調査の実施状況、結果の速報に関する意見

2.1 環境調査の結果(速報)に関する意見

2.1.1 水環境(水質)

- 岐有追-(4) 本事業で水質を評価する対象としてダム湖と河川があり、有機物指標としてダム湖では、CODが使われ、河川ではCODが指標となっておらず指標はBODを用いている。河川と湖沼の共通有機物項目として、TOCを用いるべきである。
- 岐有追-(5) 岡島橋の水温と藍川橋の水温を比較すると、下の水温が岡島橋の方が2～3度低くなっている。水生生物にとって2～3度の違いは致命的になる場合があるのでその予測をして欲しい。
- 岐有追-(6) 西平ダムのSSは長良川のSSを大きく上まわっている。導水した際、長良川のSSがどう変化するのか。又、その時水生生物に与える影響を検討すべきである。

3. 環境影響検討の予測及び評価の手法に関する意見

3.1 環境影響検討の予測及び評価の手法

岐有追-(7) 先日の水機構の環境レポート説明会で水質シミュレーションモデルは一般的なモデルを用いたとの説明であった。しかし、万能モデルは無いのでどのようなモデルを用いたのかを第一回の意見聴取で質問したのである。用いたモデルの名称、適用限界を明らかにして頂きたい。

岐有追-(8) 予測にあたっては非出水時と出水時に分けて行うとしているが、同じモデルで実施したのかが不明である。本川に流入する負荷をどのように予測したかの記述が無い。

小さな河川では、夏季夕立豪雨による急激に増大した雨天時流出負荷により、有機物負荷による酸素吸収により魚が死亡することが起きる。シミュレーションの水質項目について、水温、SSのみに限定することは問題である。

岐有追-(9) 環境基準・水質汚濁防止法は最低の基準であり、それを満たせば良いものでもない。

長良川の水質等が現状を保つことが必要である。